

阪神大震災 その後

被災会員へのボランティア活動

小田中 徹也

今年1月17日の阪神・淡路大震災による会員の被災と協議会の対応については、本誌15巻1/2合併号ですでに紹介した。ここではその後、被災した会員図書室の復旧に際して協議会が実施したボランティア活動について報告する。

1. 予備調査

3月始めに支援活動の予備調査をおこない、被災した会員からの支援要望と各会員からの支援の提供について情報を集めた。アンケートの結果では、支援の要望については復旧の見通しも定かではなかったためか、人的あるいは物的にも特に目立つものはなかった。逆に支援の提供については、各図書室での文献情報の提供をはじめ業務の代行などが多くあった。また、資料整理などの労務の提供についても申し出があった。

2. 準備

1月下旬の被災状況調査の結果と1・2月の被災地会員への訪問を踏まえ、4月から5月にかけて資料整理作業のボランティア提供について被災の厳しかった会員へ問い合わせた。そのうち、社会保険神戸中央病院と神戸労災病院から新しい書架が配備される5月下旬以降ならボランティアを受け入れたいとの申し出があった。なお、関西労災病院では書架の再配備の見通しが未定とのことであった。

この間、ボランティアを受入れる会員図書

こだなか てつや：協議会事務局長
国立京都病院図書室

室と参加申込者ともに日程の調整をするとともにボランティア保険の加入手続きを進めた。これは、ボランティア活動中にボランティア自身が怪我をした場合に保険金が支払われる傷害保険と、他人に傷害を与えた場合に支払われる賠償責任保険が含まれる。当協議会ではボランティア参加者の万が一を考え、団体でこれに加入することにした。加入先は京都府社会福祉協議会で、幹事とボランティアの参加申し出のあった一般会員の計16名を登録した。ちなみに、保険料は1名500円(1年間有効)である。

3. 実施

日程の調整、ボランティアの要請と提供の文書の取り交わし、災害保険の加入などの準備を済ませると、ボランティア活動の実施計画を参加者に連絡した。(資料参照)

社会保険神戸中央病院

ボランティアの実施は2班に分かれ、まず5月27日の土曜日に社会保険神戸中央病院図書室の復旧にあたった。宝塚から裏六甲への道では渋滞に巻き込まれ、病院への到着は予定をはるかに過ぎた昼前であった。参加者6名と担当者2名の計8名が、作業開始の遅れを取り戻そうと早速、雑誌の排架作業にとりかかった。(写真1)

担当者の林さんの意向では、必要度の高さから廊下に積み上げられた医学雑誌の排架をお願いしたいとのことであった。廊下から書庫へはリレー式で重い製本雑誌を運び、誌名

のアルファベット順に排架した。途中、病院の提供で近くのレストランで昼食をご馳走になったが、夕方まで参加者の皆さんは驚くべき働きぶりであった。廊下に積み上げられている雑誌の山を最初見た時は、大変だろうなと思ったものの、夕方6時過ぎ頃には排架作業をほぼ終えてしまった。

神戸労災病院

翌5月28日の日曜日は、メンバーが変わり神戸労災病院図書室の資料排架に携わった。担当者の井川さんとボランティア参加者の6名であった。(写真2) 井川さんの意向では、せっかく図書館員の方々に片付けてもらうのだから、NLMC分類に変えながら単行書の排架をしてほしいとのことであった。廊下や書庫に段ボール箱に入って山積みされている単行書を、1冊ずつ分類しながらやはりリレー式で排架していった。

途中の昼食は前日同様、病院が気を付けてくださり近くのレストランでご馳走になった。相当の量と思えた資料も夕方にはきれいに書架におさまった。いつもは1人で片付けるた

めか、はかばかしく進まない整理も、多人数で一度に作業すれば想像以上に速く多量の整理ができてしまう。これは、前日の時も同様に感じたことである。

4. 感想

個々の会員へ出向いてのボランティア活動は、当協議会として今回初めての経験であった。自ら準備、運営してのボランティアには手続きに戸惑うこともあったが、参加した方々は一様に充実感、達成感を味わたと喜んでいった。また、今まで協議会事業の運営や共同作業、研修会などでの研鑽はあったものの、図書館の労務的作業を多人数で共に行うことはなく、皆ある種の新鮮な感動を味わった。

また、女性が想像以上に力持ちであることも私には驚きであった。重い洋書の山や本の詰まった段ボール箱を一人平気で持ち運んでいる姿は、普段の優しい物腰からは考えられない風景であった。両日とも仕事を終えた夕方、震災の痕跡が痛々しい神戸の街で、帰り時間に余裕ある有志でビールを飲んだ。格別のおいしさであった。

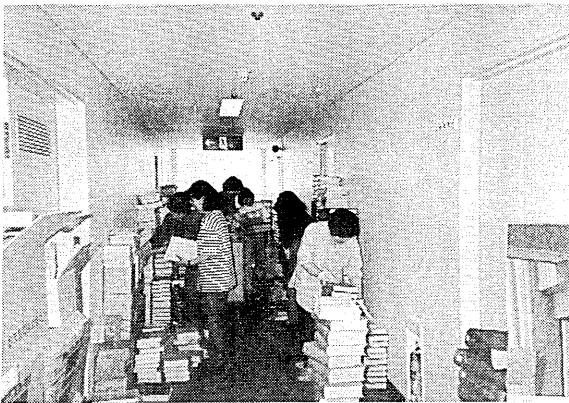


写真1：社会保険神戸中央病院にて



写真2：神戸労災病院にて

資料：ボランティア活動の実施計画

阪神大震災ボランティア活動の実施計画

近畿病院図書室協議会のボランティア実施計画が次のように決まりましたので、ご案内いたします。なお、災害保険への加入と交通費は協議会が負担いたします。また、この後の支援活動については、当日の作業終了後、参加者と各図書室担当者との間で相談の上、考えていきたいと思っています。蛇足ながら、服装は作業に適した軽装にて、また、弁当などの昼食の用意は不要です。以上、よろしくお願いいたします。

事務局 小田中徹也

期日： 平成7年5月27日(土) 午前10時～午後5時

場所： 社会保険神戸中央病院図書室 (担当者：林 伴子・浜田みちよ)
〒651-11神戸市北区惣山町2-1-1 TEL.078-594-2211

京都・大阪方面からは、当日朝、9:30にJR宝塚駅から中嶋さんの自家用車で出発、同乗希望者は中嶋さんに連絡を、定員5名。
公的交通手段：JR/三宮駅～北神急行/谷上駅～北鈴蘭台駅下車。

参加予定者： 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院)
松本純子(住友病院)
中嶋和子(西宮市立中央病院)
前田元也(西淀病院)
田中文子(済生会兵庫病院)
小田中徹也(国立京都病院)

作業内容： 図書室資料の配架整理 等

期日： 平成7年5月28日(日) 午前10時～午後5時

場所： 神戸労災病院図書室 (担当者：井川美幸)
〒651神戸市中央区籠池通4-1-23 Tel.078-231-5901

JR/灘駅下車、王子動物園出口(山側)で、当日朝、9:45に集合。
なお、病院へは同駅から山側に徒歩、約15分。

参加予定者： 山室真知子(京都南病院)
山崎捷子(淀川キリスト教病院)
重富久代(京都市立病院)
田中泉美(国立姫路病院)
熊井亜由美(兵庫県立尼崎病院)
小田中徹也(国立京都病院)

作業内容： 図書室資料の配架整理 等